

和泉聡足利市長に聞く(第3回)

—これからの足利市を考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今朝の「開倫塾の時間」では、前回に引き続きまして、足利市の市長である和泉聡様にお話をお伺いしたいと思います。和泉市長、今日もよろしくお願いいたします。

和泉市長 : よろしくお願ひします。

林 : 和泉市長にお話を伺うのは3回目となりました。そこで今朝は、足利市長としてのお話を少しお聞かせいただきたいと思います。和泉市長には、これから先、足利の市民の皆様といろいろなことをやりたいというお考えがたくさんあると思います。足利市民の皆様と一緒にどのような足利市をつかっていきたいとお考えなのか、簡単にお伺いできますか。

和泉市長 : はい。県内の市長さんたちで集まる会議がよくあって、お茶やお酒を飲みながら雑談をするのですが、あるものさしで分けると、市長さんの考え方は大きく2つに分かれるのではないかと思います。1つは、人口が減少して高齢化の進む社会なので、無理して背伸びをして経済活性化だ企業誘致だとするよりも、身の丈にあった町をつくるほうがよいという考え方です。コンパクトシティなどはその例の一つかもしれませんが、あまり無理をしないで身の丈にあった町のつくり方をしていけばいいじゃないかという考え方が1つです。もう1つは、やはり都市間競争に勝ち抜いて産業を活性化させて企業に来てもらうということが大事だという考え方です。市長さんたちと話をすると、このように大きく2つに分かれるように思うのです。

私は、どちらかというと後者で、生きのよい企業に来てもらって雇用を増やすということを中心に経済活性化・産業活性化をしていくことに、もう1回チャレンジしてみたいなと思います。

林 : ありがたい話です。

和泉市長 : 市長に就任して間もなく半年になるところですが、そのような大卒の考え方で進んでいきたいなと思ってスタートしたところでは。

林 : 産業を活性化するという事は、産業界に対する期待もたくさんあると思います。産業界ですから、自己責任で自分のことは自分でということが基本になるかと思いますが、具体的

に足利市の産業界にはどのような期待がありますか。お考えを是非お聞かせください。

和泉市長：今の足利の産業界もすごくよいものを持っています。御承知のように、自動車部品・プラスチック成形などを含めてたくさんの技術があります。繊維産業もまだまだ頑張っています。足利で頑張っている企業はとても多いです。実は、今朝も市内のある企業にお邪魔して、例の 5S の取り組みをしている現場を見せてもらいました。そこで、発想がとても豊かで、押しつけでなく、社員が自らの発案でしていく整理・整頓の様子を見ることができました。例えば掃除道具の整理では、ただ整理するだけではなく、1つ1つのコーナーをラーメンに見立てて、ほうきを取ると「売り切れ」という文字が見えるようにしてありました。遊び心も取り入れた整理・整頓の仕方を見させてもらって、ある意味での足利の産業界の底力というか、このような取り組みが根付く足利の強さを改めて感じました。足利の産業界にはそういうところを期待していますし、伸ばしていただきたいと思います。

林：5S というのは「整理・整頓・清掃・清潔・躰」ですが、足利市の 5S は「整理」のあとに「清掃」が入り、そのあとは「整頓」、「清潔」、「躰」となるようですね。我々開倫塾でも「開倫 5S 学校」というものをつくって、この 10 月から開倫塾 62 のすべての校舎で 5S 活動をスタートしました。足利流の 5S 活動はすばらしい活動ですよ。

和泉市長：本当ですね。最初はにわか勉強で、5S の話を聞かせてもらったときには単に整理・整頓をするのだったらどこでもやっているのではないかと思ったのですが、今日見させてもらって非常に中身の濃い取り組みだなと本当に驚きました。これができるのは、足利人、足利産業界の底力です。これができるということは、ビジネスにもそういう力を発揮できるということなんです。大変頼もしく思っています。

林：ありがとうございます。産業界の強みを生かして発展してもらいたいということによろしいですよ。

和泉市長：そうですね。

林：それから、足利市をつくり上げるために一番大事なのは市民の皆さんだと思うのですが、いかがですか。

和泉市長：そうですね。

林：足利市民の皆さんに期待することがあれば教えていただきたいのですが。

和泉市長：市長として足利に帰ってきて、改めて足利を見たときに思ったことは、人材が本当に豊富だということです。特に、若い世代に足利の町をなんとか盛り上げたいと思っている方が大変多くて、それぞれがすごく発想が豊かで能力を持っていると思います。そこで、そういう方たちに、特に若い層の人たちにもっと前面に出てきてもらいたいと思います。出てきてもらうために、市長としていろいろな誘導や仕掛けをしていきたいなと考えています。

もう 1 つは、その裏返しのようなのですが、どちらかというと足利市は少し保守的な風土なのかなと改めて感じました。我が家は江戸時代から足利にある家ですが、新聞記者を 25 年間

してきて足利に戻り、久しぶりに地元の方々といろいろなところでじっくりと接触して感じるのは、足利の方はある意味保守的というか、ちょっと閉鎖的なところもあるかなということです。そこで、足利の外のものもオープンに受け入れるような開かれた土壌というか、そういうものをもっと広げていきたいなと一方で思っています。

林 : 心を広くしてということですね。

和泉市長 : そうですね。

林 : 最後になりますが、足利市の子供たちに期待することがありましたら是非お聞かせください。

和泉市長 : そうですね。特に子供たちに言いたいのは、いろいろなことに感動する力をつけてほしいということです。特に、中学生や高校生ぐらいの世代は、感動することでその行動が始まります。例えば、感動することで勉強してみようと思う。感動するからこそ知りたいと思う。感動するからこそ人の力になりたいと思う。出発点でいかに豊かに感動する気持ちを持っているかということが大切だと思うのです。そういう子供になってほしいなと思います。

林 : ありがとうございます。感動することは一番大事ですよ。それも豊かに感動する。大事なことだと思います。今日は教えていただき、ありがとうございました。

和泉市長 : ありがとうございました。

林 : 今日の「開倫塾の時間」は、前々回・前回に引き続きまして、足利市役所の市長室に和泉聡足利市長をお訪ねしまして、お話をお伺いしました。和泉市長、ありがとうございました。

和泉市長 : こちらこそ、ありがとうございました。

林 : 是非、みんなで頑張ってよい足利市をつくらせていただきたいと思います。また、よろしくお願ひいたします。

和泉市長 : ありがとうございます。こちらこそよろしくお願ひします。

林 : 放送をお聴きの皆様、今回のお話も是非御参考にさせていただき、皆さんの町もみんなで頑張るよい町にさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。